

平成 21 年 6 月 5 日
株足利銀行
株あしぎん総合研究所

足利銀行（頭取 藤沢 智）のシンクタンクである「あしぎん総合研究所」（社長 豊田 晃）は、第 144 回あしぎん景況調査を行いましたので、その結果を別紙の通り発表させていただきます。今回のポイント及び概要は下記の通りです。

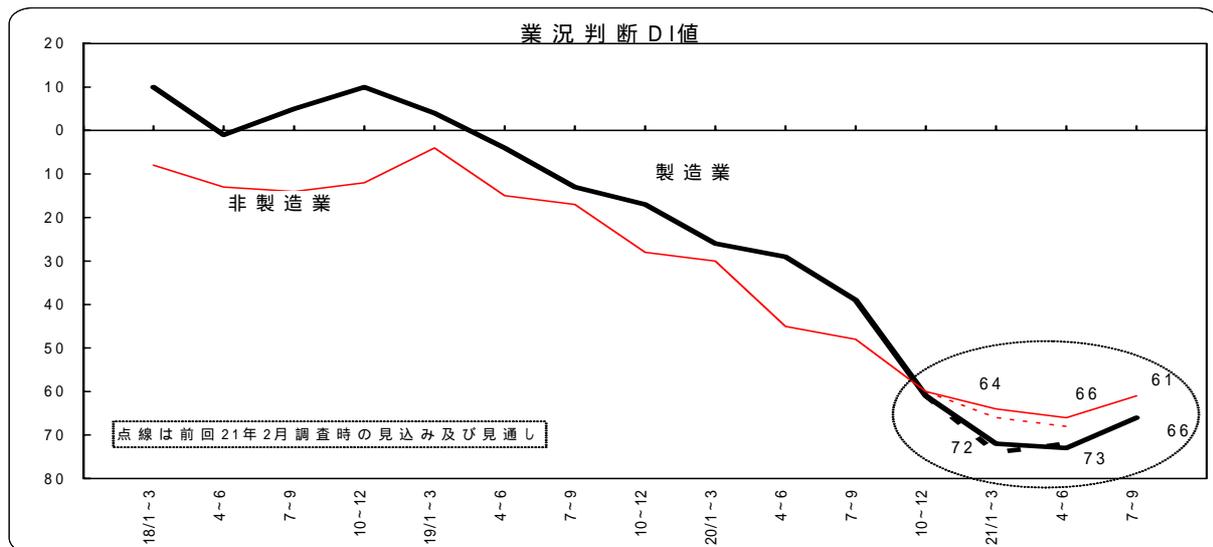
記

第 144 回あしぎん景況調査（栃木・群馬・茨城・埼玉の 4 県に本社または事業所を有する企業を抽出）

「企業の景況感は、引き続き悪化しているが底打ち感あり。先行きはやや改善」

○今回のポイント

- ・ 今期（21 年 4～6 月期実績見込み）の業況判断 DI をみると、製造業は▲73 と前期（21 年 1～3 月期実績）比 1 ポイント悪化し、第一次オイルショック時の調査（昭和 49 年 7～12 月期▲74）とほぼ並ぶ低水準となった。
- ・ 非製造業は、前期が▲64、今期が前期比 2 ポイント悪化の▲66 となり、平成 10 年 7～9 月期に記録した▲63 を下回る過去最低水準を更新した。
- ・ 来期（21 年 7～9 月期見通し）は、製造業が今期を 7 ポイント上回る▲66 となり、非製造業が今期を 5 ポイント上回る▲61 となる見通し。ともにマイナス幅は引き続き大きいものの、やや改善傾向がうかがえ、企業の景況感には底打ち感がでてきた。
- ・ 設備投資には引き続き慎重であるが、在庫の過剰感がやや減少する見通しである。生産・売上および経常利益は、大幅なマイナスであるが、来期にかけてやや上向き見通しとなっている。



本件に関するお問い合わせ先： (株)あしぎん総合研究所 産業調査部 郷間 028-623-6601

第 144 回 あしぎん景況調査

(平成 21 年 5 月実施)

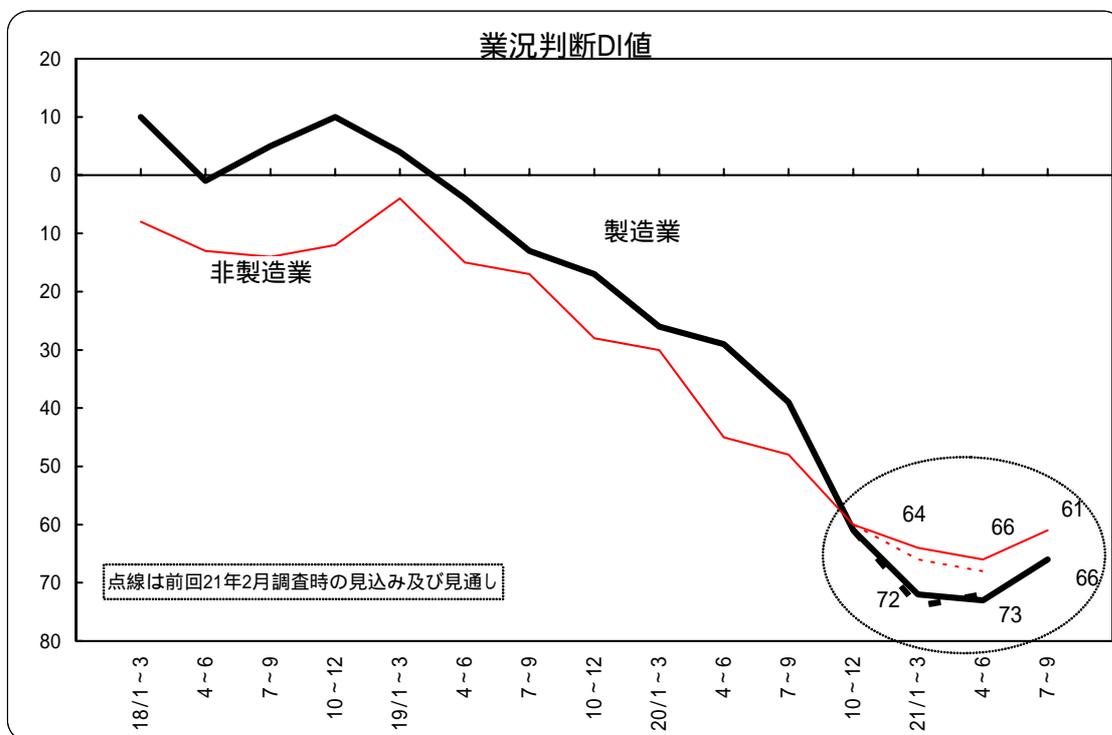
(株) あしぎん総合研究所

第144回 あしぎん景況調査

「企業の景況感は、引き続き悪化しているが底打ち感あり。先行きはやや改善」

1. 今回のポイント

- ・ 今期（21年4～6月期実績見込み）の業況判断DIをみると、製造業は▲73と前期（21年1～3月期実績）比1ポイント悪化し、第一次オイルショック時の調査（昭和49年7～12月期▲74）とほぼ並ぶ低水準となった。
- ・ 非製造業は、前期が▲64、今期が前期比2ポイント悪化の▲66となり、平成10年7～9月期に記録した▲63を下回る過去最低水準を更新した。
- ・ 来期（21年7～9月期見通し）は、製造業が今期を7ポイント上回る▲66となり、非製造業が今期を5ポイント上回る▲61となる見通し。ともにマイナス幅は引き続き大きいものの、やや改善傾向がうかがえ、企業の景況感には底打ち感がでてきた。
- ・ 設備投資には引き続き慎重であるが、在庫の過剰感がやや減少する見通しである。生産・売上および経常利益は、大幅なマイナスであるが、来期にかけてやや上向き見通しとなっている。



2. 業界天気図

業界天気図

業種	実績 21/1~3	見込み 21/4~6	見通し 21/7~9	実績 21/1~3	変化方向	見込み 21/4~6	変化方向	見通し 21/7~9
製造業	72	73	66					
飲・食料品	15	12	8					
繊維品	69	77	74					
木材・木製品	90	100	90					
紙・パルプ	92	100	92					
化学品	71	86	93					
プラスチック	78	83	75					
窯業・土石	77	89	65					
鉄鋼・非鉄	83	85	73					
金属製品	89	84	77					
一般機械	72	78	72					
電気機械	81	86	79					
輸送用機械	96	96	89					
精密機械	79	71	53					
その他	59	51	46					

業種	実績 21/1~3	見込み 21/4~6	見通し 21/7~9	実績 21/1~3	変化方向	見込み 21/4~6	変化方向	見通し 21/7~9
非製造業	64	66	61					
建設	57	59	56					
卸売	67	62	59					
小売	74	71	60					
運輸	76	76	68					
サービス	55	64	63					

* 天気図の説明

(数字は業況判断DI値)

快晴	晴れ	薄日	曇り	小雨	雨	大雨
41以上	26~40	11~25	10~10	11~25	26~40	41以下

3. 調査要綱

1. この調査は当行の営業地域（栃木、群馬、茨城、埼玉の4県）の景況を把握するため、定期的にアンケートを実施しているものである。
2. 調査実施時期は平成21年5月上旬、調査対象期間は平成21年1～3月期実績、平成21年4～6月期実績見込み、平成21年7～9月期見通しである。
3. 調査対象企業数2,233社に対し、回答企業数1,352社（うち有効回答企業数1,291社）、回答率60.5%であった。回答企業の業種別、所在地・規模別構成は以下のとおりである。

(1) 業種別構成 (単位：社、%)

	企業数	
	合計	うち 中小企業
合計	1,291 (100.0)	1,004 (100.0)
製造業	557 (43.1)	481 (47.9)
飲・食料品	60 (4.6)	52 (5.2)
繊維品	36 (2.8)	36 (3.6)
木材・木製品	20 (1.5)	18 (1.8)
紙・パルプ	13 (1.0)	13 (1.3)
化学品	15 (1.2)	10 (1.0)
プラスチック	40 (3.1)	35 (3.5)
窯業・土石	26 (2.0)	24 (2.4)
鉄鋼・非鉄	40 (3.1)	32 (3.2)
金属製品	56 (4.3)	49 (4.9)
一般機械	60 (4.6)	51 (5.1)
電気機械	58 (4.5)	49 (4.9)
輸送用機械	45 (3.5)	36 (3.6)
精密機械	35 (2.7)	26 (2.6)
その他	53 (4.1)	50 (5.0)
非製造業	734 (56.9)	523 (52.1)
建設	162 (12.5)	148 (14.7)
卸売	125 (9.7)	93 (9.3)
小売	136 (10.5)	47 (4.7)
運輸	111 (8.6)	103 (10.3)
サービス	200 (15.5)	132 (13.1)

()内は構成比

(2) 所在地・規模別構成 (単位：社、%)

	合計	うち 中小企業	栃木県内		栃木県外	
			合計	うち 中小企業	合計	うち 中小企業
合計	1,291 (100.0)	1,004 (77.8)	717 (55.5)	542 (42.0)	574 (44.5)	462 (35.8)
製造業	557 (100.0)	481 (86.4)	314 (56.4)	263 (47.2)	243 (43.6)	218 (39.1)
非製造業	734 (100.0)	523 (71.3)	403 (54.9)	279 (38.0)	331 (45.1)	244 (33.2)

()内は構成比

(注1) 企業規模は従業員数による。製造、建設、運輸の3業種は300人以上、卸売、サービスの2業種は100人以上、小売は50人以上を大企業とし、それ未満を中小企業とした。

(注2) 表中および文中の「卸売業」、「小売業」、「サービス業」に含まれる業種は次の通り。
 ・卸売業 ----- 繊維・衣服等、飲・食料品、建築材料・鉱物・金属材料等、機械器具、その他卸売業
 ・小売業 ----- 百貨店、総合スーパー、織物・衣服・身の回り品、飲・食料品、自動車・自転車、家具・じゅう器・機械器具、その他の小売業
 ・サービス業 ----- 情報通信、不動産、飲食店、宿泊、専門サービス、洗濯・理容、その他の生活関連サービス業、娯楽、廃棄物処理、自動車整備、機械等修理、物品賃貸、広告、その他の事業サービス、その他のサービス業

(注3) 第129回調査より日本標準産業分類第11回改訂に基づき一部業種の分類を変更した。

DI (Diffusion Indexの略) について

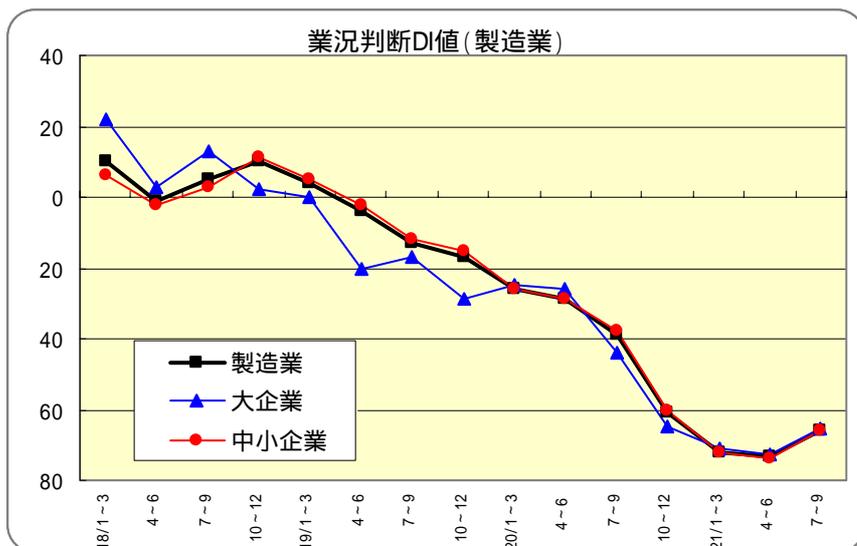
(説明) DIとは、有効回答企業数の合計を100%として「増加(好転)」とする企業の割合から「減少(悪化)」とする企業の割合を差し引いた数値である。

たとえば業況に関するDI値がプラスのときは業況は好転、したがって景気は上昇・拡大局面、マイナスのときは下降・縮小局面と、景気 directional 性を判断する指標として利用されていることから「景気動向指数」といわれる。本調査では、DIの「値」がプラスのときは符号なし、マイナスのときは▲で、「変化幅(前期比)」がプラスのときは+、マイナスのときは-で符号を表示する。

1. 業況判断DI値

(1) 製造業

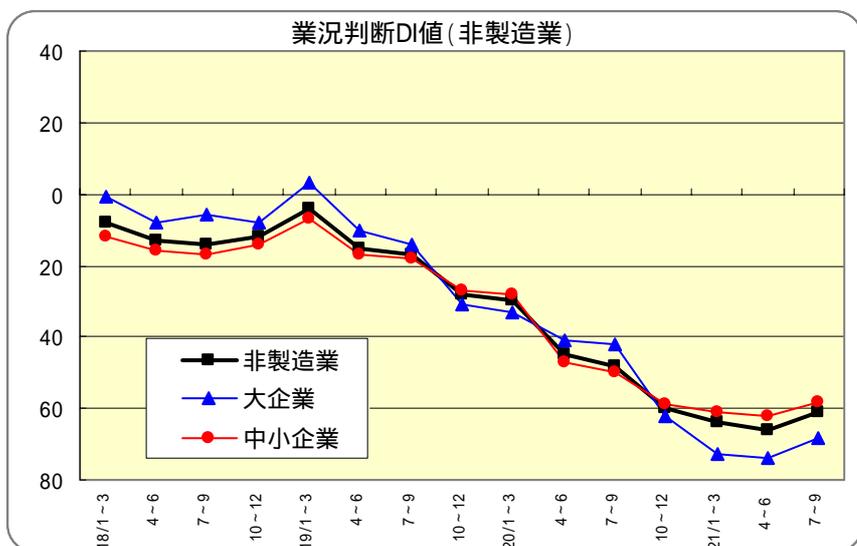
- ・ 今期（21年4～6月期）は▲73と前期（21年1～3月期）比1ポイント悪化し、第一次オイルショック時の調査（昭和49年7～12月期▲74）とほぼ並ぶ低水準となった。来期（21年7～9月期）は、今期を7ポイント上回る▲66となる見通し。引き続きマイナスであるが、底打ち感もでてきた。
- ・ 規模別にみると、今期は大企業が▲72、中小企業が▲74となり大差はない。来期は大企業が▲65、中小企業が▲66と、ともに改善する見通し。



業況判断DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期	来期
飲・食料品	12	8
その他	51	46
精密機械	71	53
繊維品	77	74
一般機械	78	72
プラスチック	83	75
金属製品	84	77
鉄鋼・非鉄	85	73
化学品	86	93
電気機械	86	79
窯業・土石	89	65
輸送用機械	96	89
木材・木製品	100	90
紙・パルプ	100	92

(2) 非製造業

- ・ 今期は▲66と前期比2ポイント悪化。来期は今期を5ポイント上回り▲61となる見通し。製造業と同様に、来期への期待感がうかがえる。
- ・ 規模別にみると、今期は大企業が▲74、中小企業が▲62となり、大企業の景況感が悪い。来期は大企業が▲68、中小企業が▲58とともに改善見通しであるが、大企業の方が厳しい見通し。

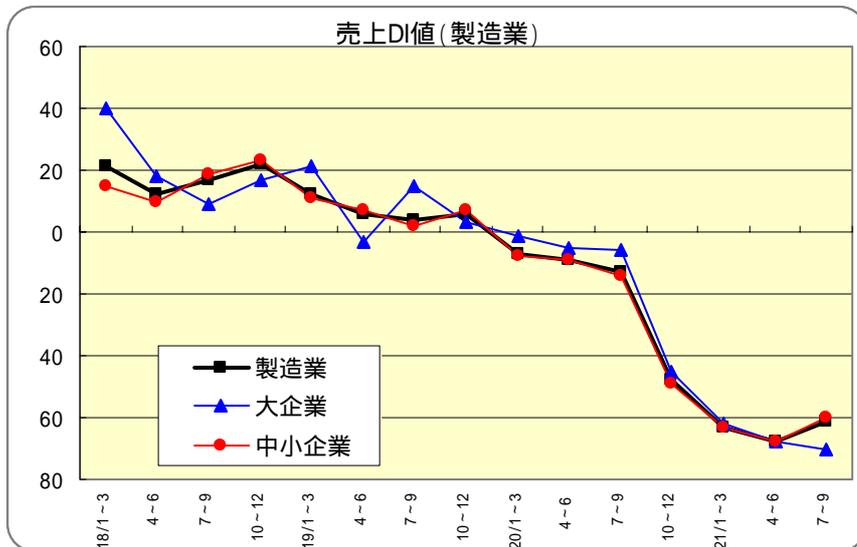


業況判断DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期	来期
建設	59	56
卸売	62	59
サービス	64	63
小売	71	60
運輸	76	68

2. 生産・売上DI値

(1) 製造業

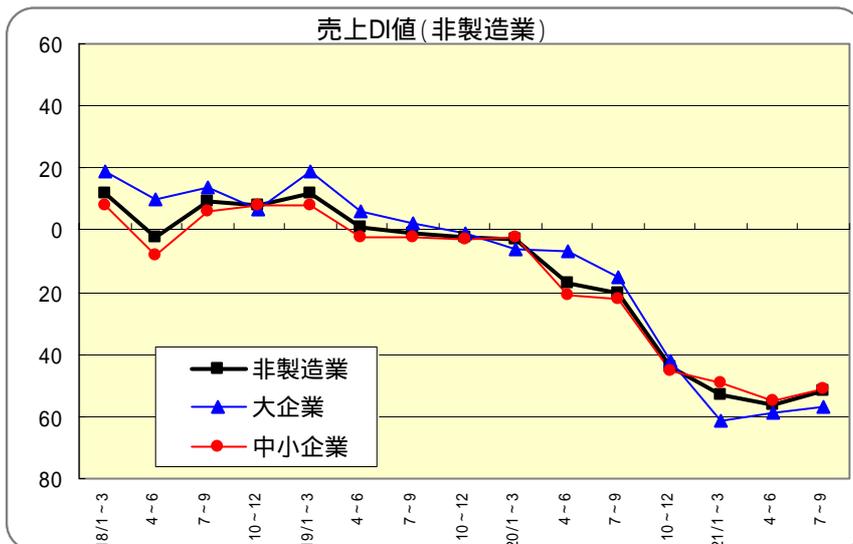
- ・ 今期は▲68 と前期比 5 ポイント悪化し、昨年秋からの大幅な落ち込みが継続している。来期は、今期を 7 ポイント上回り▲61 となり、引き続きマイナス幅は大きいものの改善見通しである。
- ・ 規模別にみると、今期は大企業、中小企業ともに▲68。来期は大企業が▲70、中小企業が▲60 と、大企業が厳しい見通し。



生産・売上DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4~6	来期 21/7~9
飲・食料品	3	3
織・維品	53	58
その他	55	42
一般機械	68	67
窯業・土石	76	42
紙・パルプ	77	83
精密機械	77	63
鉄鋼・非鉄	78	73
電気機械	83	86
金属製品	84	75
木材・木製品	85	75
プラスチック	85	73
化学品	93	87
輸送用機械	96	84

(2) 非製造業

- ・ 今期は▲56 と前期比 3 ポイント悪化。来期は今期を 4 ポイント上回り▲52 となり、緩やかに上向き見通し。
- ・ 規模別にみると、今期は大企業が▲59、中小企業が▲55 となり、やや大企業の売上げが厳しい。来期は大企業が▲57、中小企業が▲51 とともに改善見通しである。

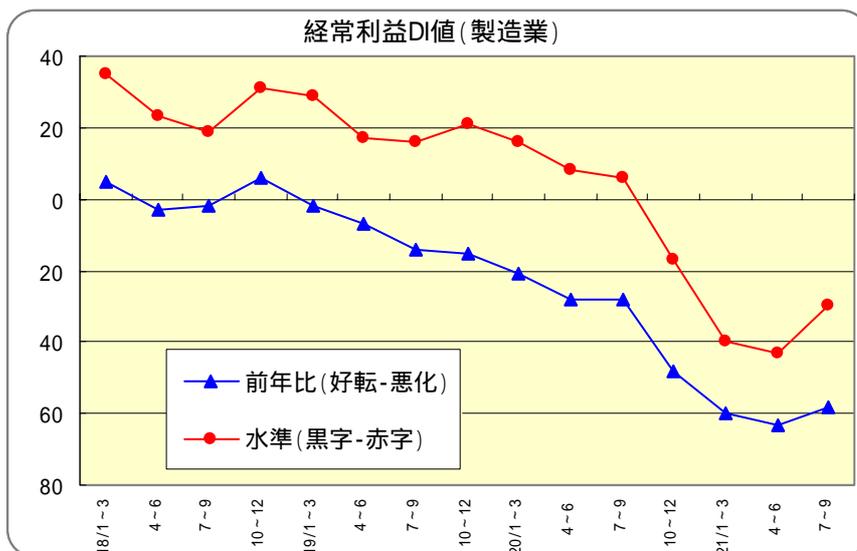


生産・売上DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4~6	来期 21/7~9
卸・売	47	46
建設	48	52
サービス	55	51
小・売	56	51
運輸	78	66

3. 経常利益DI値

(1) 製造業

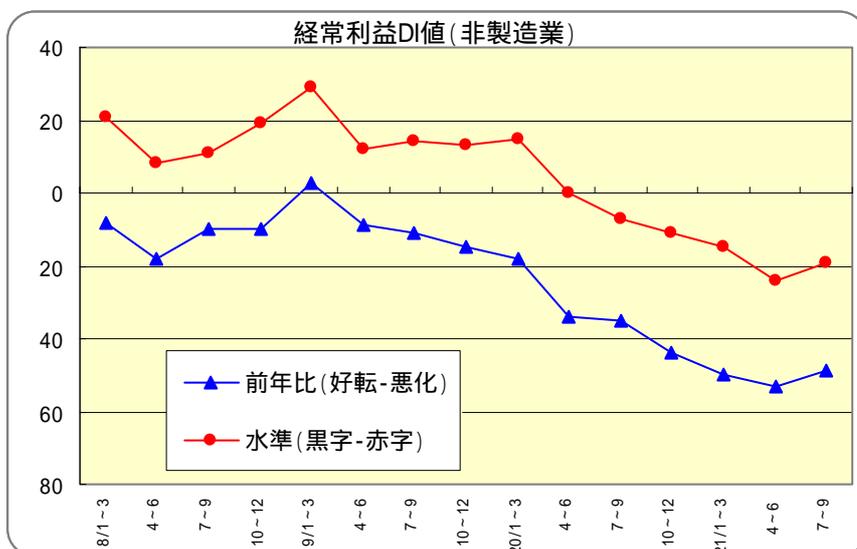
- 前年比増減DIをみると、今期は▲63と前期比3ポイント悪化した。来期は、今期を5ポイント上回り▲58となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲60、中小企業が▲64。来期は大企業が▲55、中小企業が▲59となる見通し。
- 利益水準DI（黒字企業割合－赤字企業割合）をみると、今期は▲43と前期比3ポイント悪化。来期は、今期を13ポイント上回り▲30となり、大幅に上向き見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲51、中小企業が▲41。来期は大企業が▲33、中小企業が▲30の見通し。



業種	今期	来期
	21/4~6	21/7~9
飲・食料品	3	7
その他	40	37
繊維品	61	64
精密機械	66	49
化学品	67	80
窯業・土石	69	62
一般機械	72	70
プラスチック	73	65
鉄鋼・非鉄	75	73
金属製品	77	66
電気機械	78	71
木材・木製品	80	75
紙・パルプ	92	83
輸送用機械	96	86

(2) 非製造業

- 前年比増減DIをみると、今期は▲53と前期比3ポイント悪化し、来期は今期を4ポイント上回り▲49となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲58、中小企業が▲51。来期は大企業が▲55、中小企業が▲46と、やや改善する見通し。
- 利益水準DIをみると、今期は▲24と前期比9ポイント悪化。来期は、今期を5ポイント上回り▲19となる見通し。規模別にみると、今期は大企業及び中小企業ともに▲24。来期は大企業が▲21、中小企業が▲19の見通し。

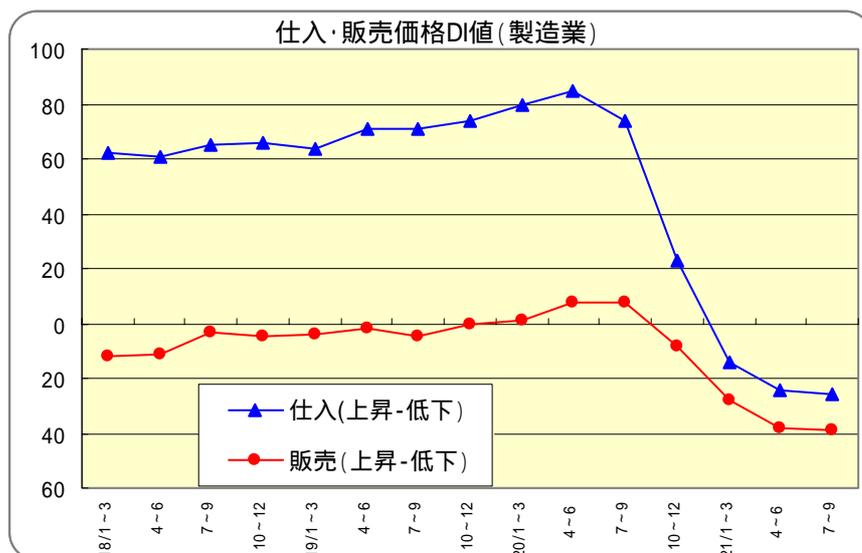


業種	今期	来期
	21/4~6	21/7~9
建設	49	47
卸売	49	49
小売	52	43
サービス	53	52
運輸	63	52

4. 仕入・販売価格D I 値

(1) 製造業

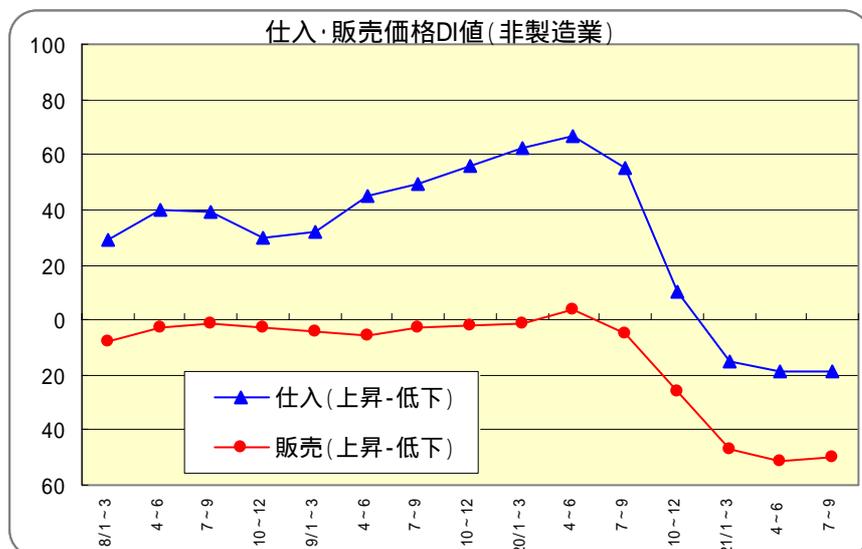
- 仕入価格D I をみると、今期は▲24 と前期比 10 ポイント低下した。来期は、今期を 2 ポイント下回り▲26 となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲41、中小企業が▲21。来期は大企業が▲40、中小企業が▲24 と、大企業の仕入価格が低下（交易改善）している。
- 販売価格D I をみると、今期は▲38 と前期比 10 ポイント悪化。来期は、今期を 1 ポイント下回り▲39 となり、販売価格はほぼ横ばいの見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲43、中小企業は▲37。来期は大企業が▲47、中小企業が▲38 となる見通しである。



仕入価格DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
紙・パルプ	15	17
窯業・土石	15	15
飲・食料品	2	2
繊維品	6	8
その他	8	19
電気機械	17	16
一般機械	22	27
輸送用機械	36	31
金属製品	39	48
木材・木製品	40	35
精密機械	40	37
プラスチック	43	40
化学品	47	47
鉄鋼・非鉄	67	74

(2) 非製造業

- 仕入価格D I をみると、今期は▲19 と前期比 4 ポイント低下。来期は、今期と同値の▲19 となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲25、中小企業が▲17。来期は大企業が▲28、中小企業が▲15 となる見通しである。
- 販売価格D I をみると、今期は▲51 と前期比 4 ポイント悪化。来期は、今期を 1 ポイント上回り▲50 となる見通しであり、引き続き販売価格は厳しい見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲58、中小企業は▲48。来期は大企業が▲57、中小企業が▲47 とほぼ横這いである。

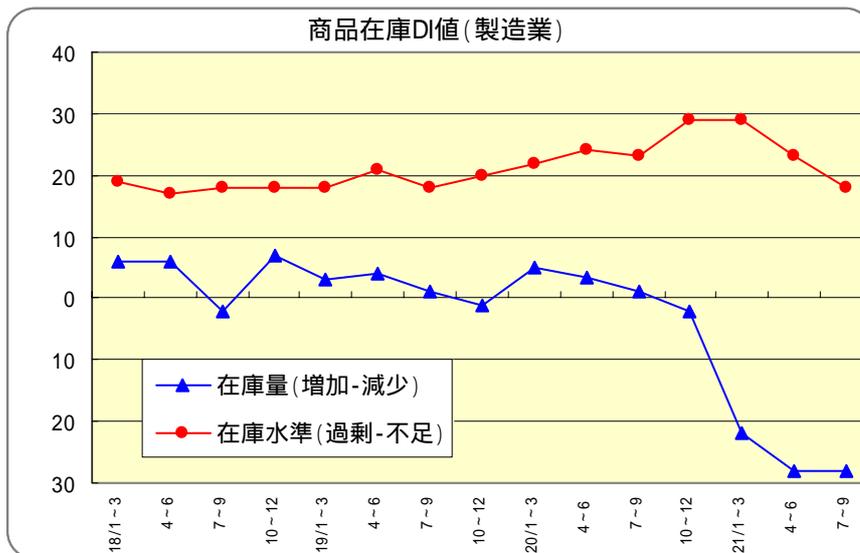


仕入価格DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
サービス	8	11
建設	12	9
卸売	23	23
小売	28	26
運輸	33	32

5. 在庫量と在庫水準D I 値

(1) 製造業

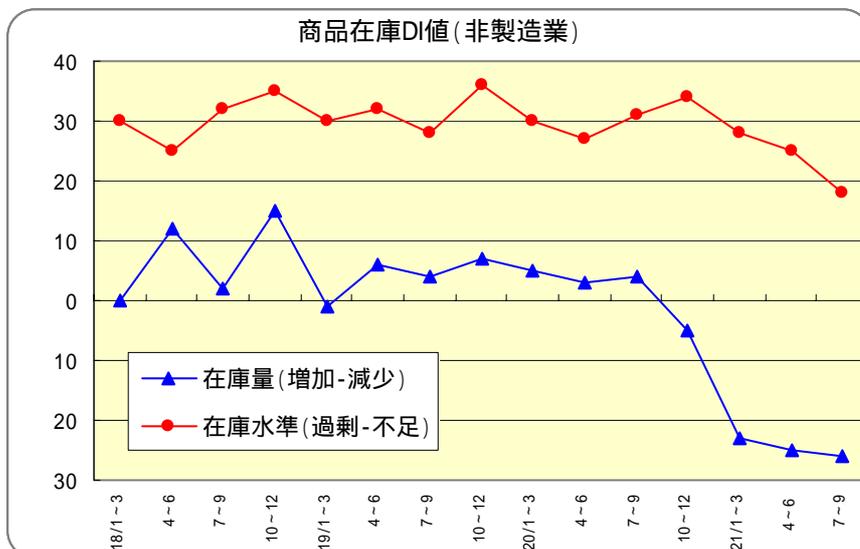
- 前年比増減D I をみると、今期は▲28 と前期比 6 ポイント低下。来期は、今期と同値の▲28 となり、在庫の減少が続く見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲23、中小企業が▲29。来期は大企業が▲30、中小企業が▲28 となる見通しである。
- 適正水準比D I (在庫過剰-在庫不足企業割合) をみると、今期は 23 と前期比 6 ポイント低下。来期は、今期を 5 ポイント下回る 18 となり適正水準に向かう見通し。規模別にみると、今期は大企業が 33、中小企業は 22 と大企業の過剰感が強い。来期は大企業が 26、中小企業が 17。



在庫適正水準DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
窯業・土石	40	28
紙・パルプ	39	15
電気機械	39	30
輸送用機械	29	18
化学品	27	20
精密機械	27	24
プラスチック	23	15
金属製品	22	17
木材・木製品	21	32
飲・食料品	17	12
繊維品	17	14
鉄鋼・非鉄	16	24
一般機械	16	18
その他	14	4

(2) 非製造業

- 前年比増減D I をみると、今期は▲25 と前期比 2 ポイント低下。来期は、今期を 1 ポイント下回り▲26 となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲25、中小企業が▲24。来期は大企業が▲31、中小企業が▲22 と、大企業の在庫が減少する見通しである。
- 適正水準比D I をみると、今期は 25 と前期比 3 ポイント低下。来期は、今期を 7 ポイント下回る 18 となり適正水準に向かう見通し。規模別にみると、今期は大企業が 17、中小企業は 32 で中小企業の過剰感が強い。来期は大企業が 13、中小企業が 23 となっている。

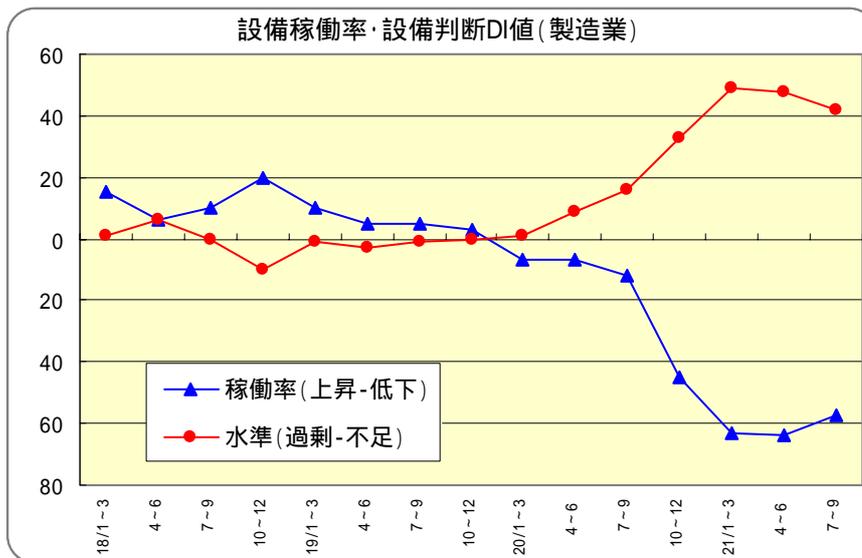


在庫適正水準DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
卸 売	34	22
小 売	17	15

6. 設備稼働率・設備判断DI値

(1) 製造業

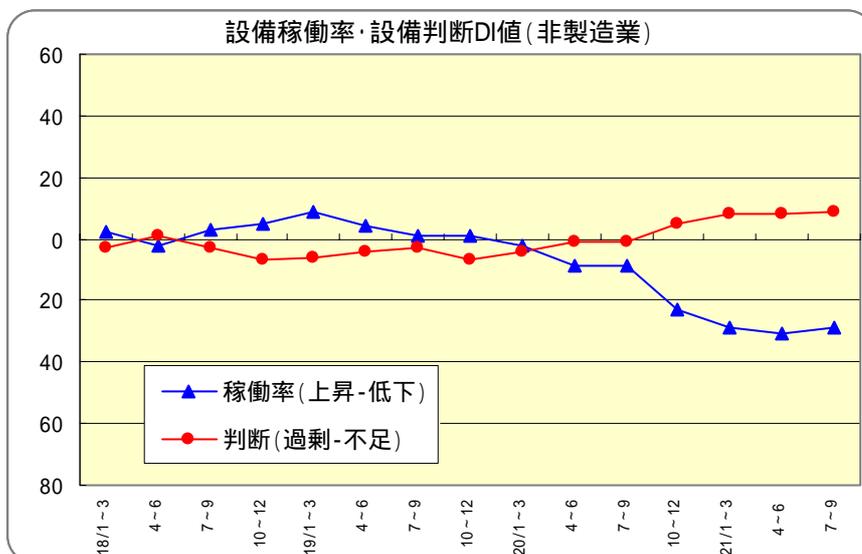
- ・ 設備稼働率DIをみると、今期は▲64と前期比1ポイント悪化。来期は、▲57となる見通しだが水準は低い。規模別にみると、今期は大企業が▲70、中小企業が▲63。来期は大企業が▲64、中小企業が▲56となる見通し。
- ・ 適性水準比DI（設備過剰-不足企業割合）をみると、今期は48と前期比1ポイント低下。来期は今期を6ポイント下回り42となりやや過剰感が薄れる。規模別にみると、今期は大企業が62、中小企業は45と大企業の過剰感強い。来期は大企業が58、中小企業が39となる見通し。



設備適正水準DI 業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
輸送用機械	77	73
電気機械	69	53
紙・パルプ	62	46
金属製品	59	55
プラスチック	55	48
鉄鋼・非鉄	53	55
化学品	47	47
窯業・土石	46	39
精密機械	43	40
木材・木製品	40	30
その他	40	31
一般機械	35	37
繊維品	34	20
飲・食料品	14	14

(2) 非製造業

- ・ 設備稼働率DIをみると、今期は▲31と前期比2ポイント悪化。来期は、▲29とほぼ横ばいの見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲30、中小企業が▲31。来期は大企業が▲29、中小企業が▲28と、ほぼ横這いである。
- ・ 適性水準比DIをみると、今期は8と前期と同値で、製造業ほどの過剰はない。来期は、今期を1ポイント上回り9となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が5、中小企業が9。来期は大企業が4、中小企業が10となっており、ほぼ横這いである。

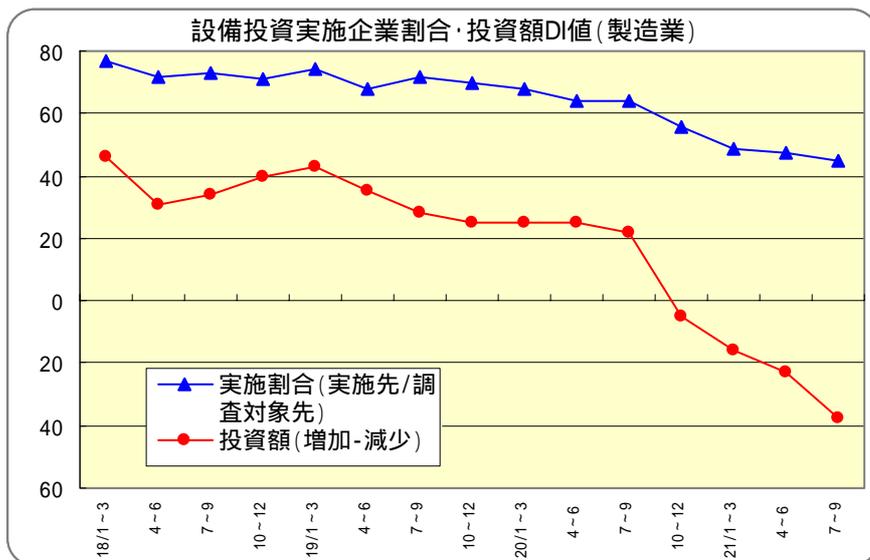


設備適正水準DI 業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
運輸	24	24
建設	6	7
卸売	5	6
小売	5	6
サービス	5	4

7. 設備投資DI値

(1) 製造業

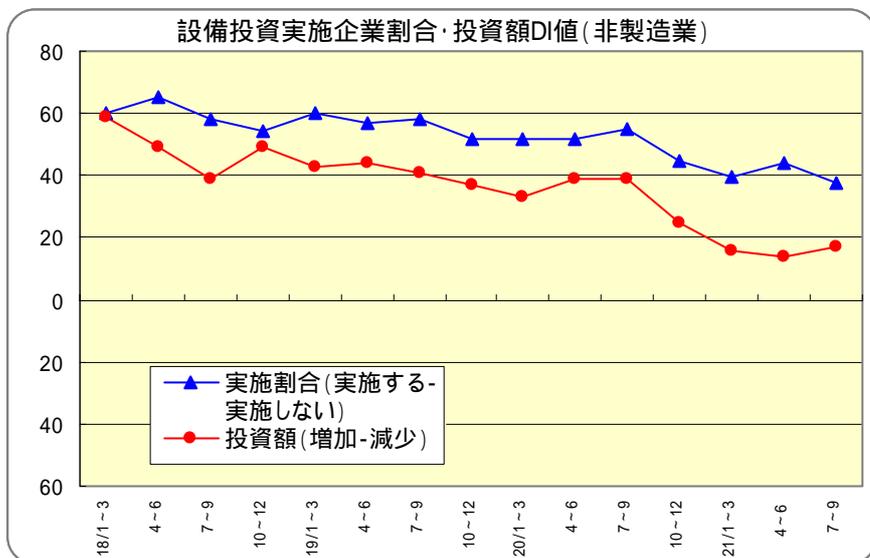
- ・ 実施企業割合DIをみると、今期は48と前期比1ポイント低下した。来期は45とやや低下する見通し。規模別にみると、今期は大企業が71、中小企業が42で大企業の実施割合が高い。来期は大企業が72、中小企業が38となる見通しである。
- ・ 投資額DIをみると、今期は▲23と前期比7ポイント悪化した。来期は、今期を15ポイント下回り▲38となり大幅に悪化する見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲64、中小企業が▲8と大企業の投資額が減少している。来期は大企業が▲61、中小企業が▲27となる見通し。



業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
飲・食料品	12	20
金属製品	8	46
木材・木製品	0	0
紙・パルプ	0	0
その他	0	20
精密機械	14	21
電気機械	27	54
プラスチック	30	100
繊維品	33	100
一般機械	42	82
化学品	43	14
窯業・土石	44	44
鉄鋼・非鉄	50	56
輸送用機械	73	93

(2) 非製造業

- ・ 実施企業割合DIをみると、今期は44と前期比4ポイント改善したが、来期は38となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が51、中小企業が41。来期は大企業が47、中小企業が34となる見通しである。
- ・ 投資額DIをみると、今期は14と前期比2ポイント悪化した。製造業ほどは悪化していない。来期は、今期を3ポイント上回る17となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が▲11、中小企業が26と大企業が厳しい。来期は大企業が▲2、中小企業が28となる見通しである。

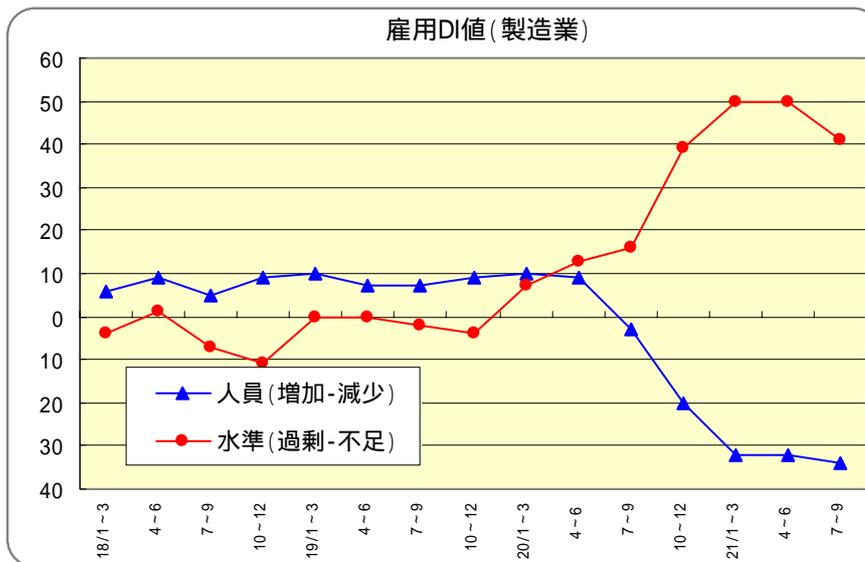


業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
卸・売	52	47
建設	20	6
サービス	8	2
運輸	5	13
小売	0	35

8. 雇用人員DI値

(1) 製造業

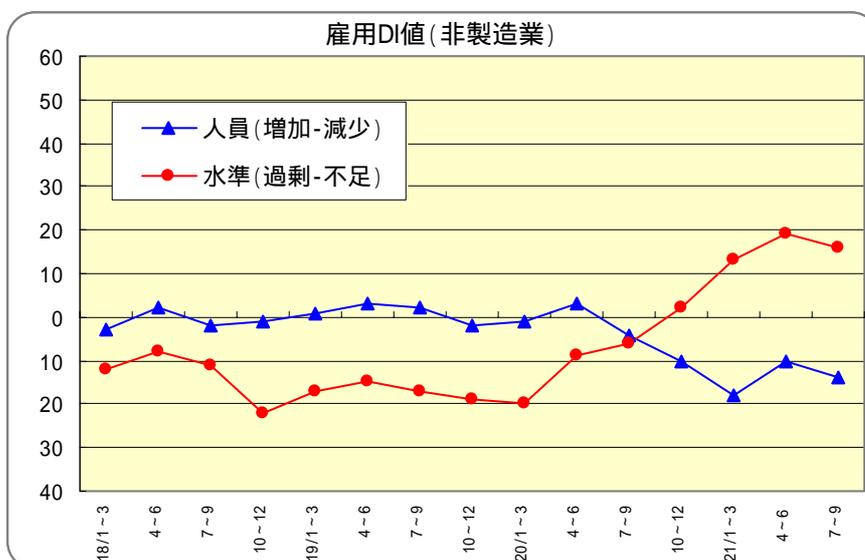
- 前年比増減DIをみると、今期は▲32と前期と同値。来期は、今期を2ポイント下回り▲34と厳しさが続く見通しである。規模別にみると、今期は大企業が▲40、中小企業が▲31。来期は大企業が▲37、中小企業が▲33となる見通し。
- 適正水準比DI（雇用過剰-不足企業割合）をみると、今期は50と引き続き過剰感がある。来期は、今期を9ポイント下回り41となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が63、中小企業が48と大企業の過剰感が強い。来期は大企業が52、中小企業が39となる見込みである。



雇用人員適正水準DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
輸送用機械	78	69
プラスチック	75	48
木材・木製品	70	55
紙・パルプ	69	54
鉄鋼・非鉄	60	58
一般機械	57	45
化学品	53	40
電気機械	52	47
金属製品	50	40
精密機械	49	54
その他	37	28
窯業・土石	35	31
繊維品	28	17
飲・食料品	15	10

(2) 非製造業

- 前年比増減DIをみると、今期は▲10と前期比8ポイント改善。来期は、今期を4ポイント下回り▲14となる見通しである。規模別にみると、今期は大企業が▲9、中小企業が▲10。来期は大企業が▲15、中小企業が▲14となる見通し。
- 適正水準比DIをみると、今期は19と前期比6ポイント悪化した。来期は、今期を3ポイント下回り16となる見通し。規模別にみると、今期は大企業が17、中小企業が20。来期は大企業が12、中小企業が18となる見通しである。

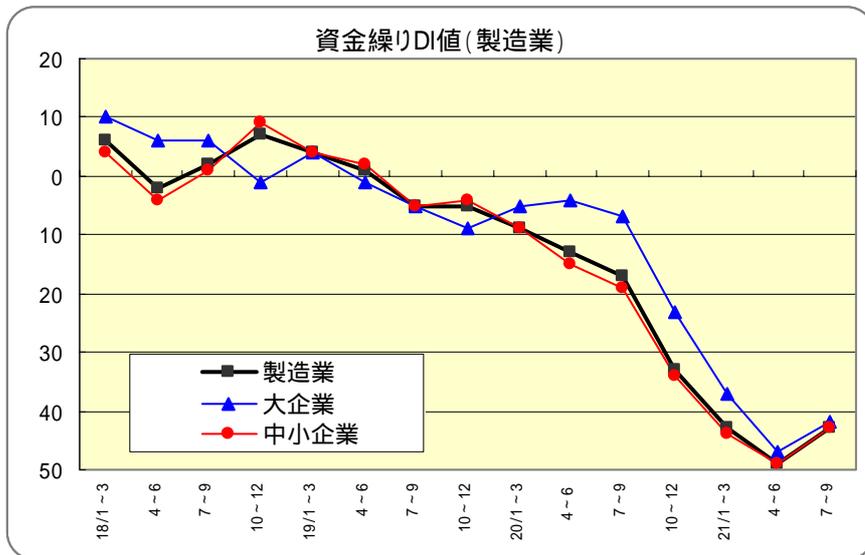


雇用人員適正水準DI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4-6	来期 21/7-9
小売	25	24
運輸	25	21
建設	17	17
卸売	16	11
サービス	16	11

9. 資金繰りDI値

(1) 製造業

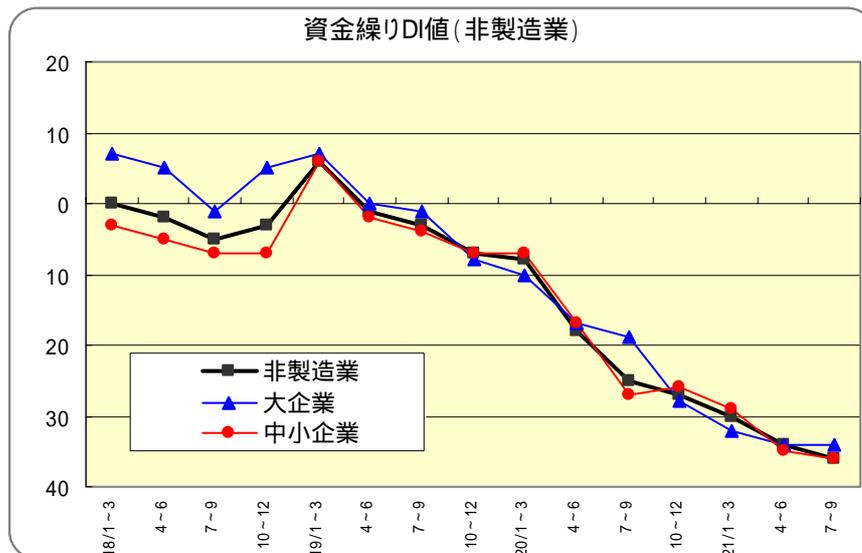
- ・ 今期は▲49と前期比6ポイント悪化し、資金繰りが悪化した。来期は、今期を6ポイント上回り▲43となる見通し。
- ・ 規模別にみると、今期は大企業が▲47、中小企業が▲49。来期は大企業が▲42、中小企業が▲43と、やや改善するがともに厳しい見通しである。



資金繰りDI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4~6	来期 21/7~9
化学品	13	27
飲・食料品	15	10
その他	37	31
繊維品	42	37
一般機械	47	45
鉄鋼・非鉄	50	50
電気機械	53	50
窯業・土石	54	42
木材・木製品	55	50
精密機械	57	49
紙・パルプ	58	67
プラスチック	60	55
金属製品	63	45
輸送用機械	80	67

(2) 非製造業

- ・ 今期は▲34と前期比4ポイント悪化した。来期は今期を2ポイント下回り▲36となる見通し。
- ・ 規模別にみると、今期は大企業が▲34、中小企業が▲35となり、来期は大企業が▲34、中小企業が▲36とほぼ横這いである。



資金繰りDI		
業種別順位(今期)		
業種	今期 21/4~6	来期 21/7~9
卸売	24	23
小売	26	31
サービス	36	39
建設	41	44
運輸	43	39